

# 豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.39)

## 1. 豊田PCB廃棄物処理施設の運転再開について

豊田PCB廃棄物処理施設(豊田施設)では、真空加熱炉の破損による冷却水の漏れ等不具合が続発したため、本年2月14日に運転を停止して、不具合設備の補修のみならず、他の熱交換器及び流出防止機能の安全性の確認や漏洩検知器の追加設置など、施設全体の安全性・健全性の確認及び強化を図ってきました。

これまでの不具合対策の内容等については、豊田市PCB処理安全監視委員会等へ報告し、関係者のご理解を得られましたので、このたび6月28日に運転を再開いたしました。

運転再開にあたって、以下の方針で処理を行っています。

- (1) 再開当初は、停止前に受け入れた処理途中のPCB廃棄物から処理を行います。7月中旬に新たなPCB廃棄物の受け入れを予定しています。
- (2) 運転再開後、おおよそ1ヶ月間は、安全を確認しつつ、処理能力の30%~50%程度で運転を行います。その後は処理状況を踏まえて、安全に留意して処理能力を上げていきます。

また、豊田施設では、環境安全に万全を期するため、これまで講じた設備面の対策に加えて、組織、人に対する対策も講じています(次項「2. 環境安全への取り組みについて」参照)。

一昨年(平成17年)のPCB漏洩事故及び今般の不具合を教訓に、安全かつ確実な運転を持続して、皆様の信頼を取り戻すよう全力を尽くしてまいります。



市立会による安全性の確認



運転再開前の作動確認



運転再開に向けて安全運転の訓辞(中央制御室)



運転再開後の作業状況(トランス解体)

## 2. 環境安全への取り組みについて



HHK(ヒヤリ・ハット・気がかり)活動の状況

### (1) 組織体制の強化について

#### ① 設備保全部門、安全対策部門の強化

設備保全業務を強化するため、運転部門の業務のうち設備部門を独立させて設備保全課を設置しました。

また、安全対策部門へ増員を行い、組織上の強化を図りました。

#### ② 人員体制の強化

運転業務を確実に遂行できる人材を補充して増員を図る等、体制を強化します。

### (2) トラブル及びミスの事前防止

事故を未然に防ぐためには、社員一人ひとりによる潜在的风险(「ヒヤリとしたこと」、「ハットとしたこと」等)の発掘が重要となります。

【次ページへつづく】

### 【前ページからのつづき】

現在、従来から行ってきた「HHK(ヒヤリ・ハット・気がかり)活動」を強化し、展開するため、外部機関から専門家を招き、問題点の抽出や全ての担当者に徹底できる体制改善等に取り組んでいます。

### (3) 設計思想の再確認

施設の運転を安全かつ確実にを行うためには、まず施設がどのような思想で設計されているか熟知していることが重要です。

このため、現在、豊田施設を設計・施工した技術者から設計思想について教育を受け、再確認を行っています。

具体的には、これまで①使用薬剤の性質とその取り扱い、②異常時・誤作動時に緊急停止するシステム、③PCBが浸透している部材(木・紙等)の洗浄について、等を受講しました。

今後は各施設のシステム、制御等について再教育を実施し、資質の高い人材に教育します。



設計思想の再教育状況

## 3. 設備と作業の紹介(蒸留設備)について

蒸留設備は、沸点の温度差を利用して混合した物質を分離させる設備であり、豊田施設には8基の蒸留塔があります。

このうち6基の蒸留塔は、抜油・解体工程及び洗浄工程から出たPCBが混合している洗浄溶剤、トランス油等を、PCB、トリクロロベンゼン(TCB)、洗浄油等に分離し、それぞれ次工程へ送液します(下図参照)。

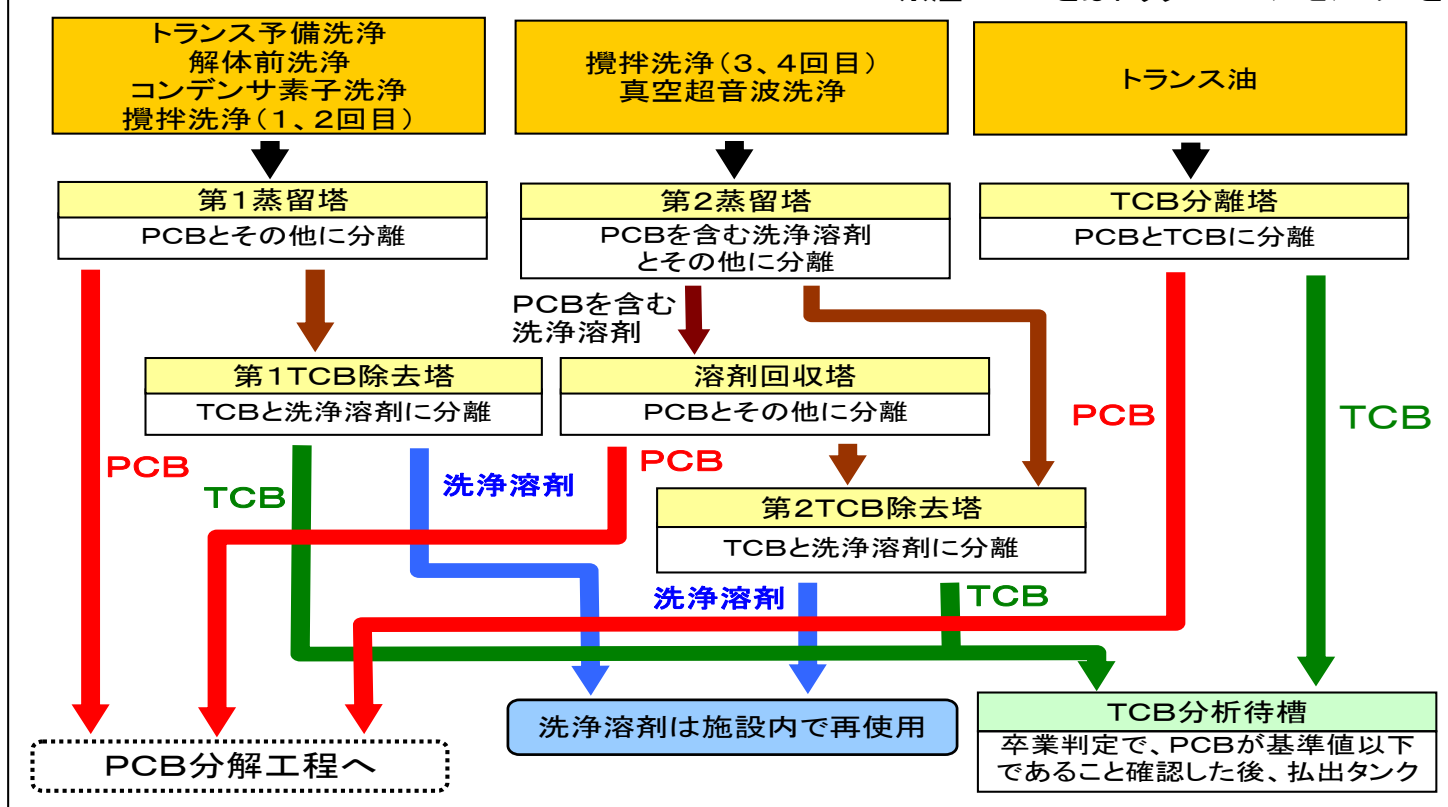
他の2基の蒸留塔は、施設内の排気処理工程(オイルスクラバ)から発生したPCB含有油を蒸留させます。



蒸留設備

### 処理工程概要図

※注 TCBとはトリクロロベンゼンのこと



### 連絡先

日本環境安全事業株式会社(JESCO)

(連絡先) 豊田事業所 0565-25-3110

【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>